

教員名	安成 英樹 (YASUNARI Hideki)
所 属	文教育学部人文科学科形象分析学講座
学 位	文学修士(1990 東京大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	hy@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

フランス近世国制史 / 官職売買制度 / 地方長官 / 儀礼 / 統治構造

◆研究内容

フランス近世国制史の研究。とくに絶対王政期の官僚制度(官職売買制度)を中心とする権力構造や、宮廷を舞台に展開する儀礼の分析を通じて、当時の統治システムとその有効性を検討する。

具体的な研究課題としては、

1 絶対王政期の官僚制の考究……国王権力の重要な柱である官僚制について、その二大類型たる官職保有者(官職を金銭で購入した人々)と直轄官僚(国王によって任免可能な官僚群)、この両者の特質を分析し、当時の社会に深く根を下ろしていた官職売買制度の実態に迫る。

2 権力を補完するものとしての権威構造の解明……支配の実際の脆弱さを補うものとして、国王を主体に展開された各種儀礼(宮廷儀礼、国家儀礼、メディア戦略など)の具体的分析を行う。

平成17年度は、この2点の課題がクロスする宮廷に研究の主眼をおき、その具体的な構造分析を行った。これは、平成16年度からの科研費基盤研究(C)「フランス絶対王政期における官職売買制度についての展開とその再検討」の研究活動の一端でもある。

◆教育内容

学部の特講では、基本的に現在の研究テーマである宮廷を取り上げた。具体的にはフランス国王(王家)の存在意義・機能、フランス宮廷の具体的な構造、国王の日常生活、宮廷を舞台に展開された各種の儀礼といったテーマについて講義を行った。学部の演習では、18世紀フランスの公共圏の成立に重点をおいた英文テキストを使いながら、18世紀アンシャン・レージュム社会の特質について考えた。これ以外にも、主として1、2年生向けの基礎ゼミ、西洋史概説、西洋史研究法などの授業を担当した。大学院の演習では、フランス近世の古典的概説書を材料に、主として近世都市の特質について検討した。また、学部4年生のなかで西洋史分野で卒論を書く学生(8名)についての指導を行い、博士前期課程でフランス近世史を専攻する学生(2名)の修論指導を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

フランスの宮廷構造を明らかにし、その基本的構成人員である宮廷貴族の役割を詳細に分析することで、国王の王国統治において欠かすことのできない権威と権力というコインの両面について分析を進めていきたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・官僚制
- ・統治制度

◆受験生等へのメッセージ

大学で学ぶ（ことのできる）歴史は、暗記中心の高校のそれとは全く違います。年号や固有名詞を覚えることに意味はありません。ある時代のさまざまな事件、あるいは社会そのものがどうして生まれたのか、自分でテーマを見つけて材料を集め、自分で考え、自分なりの解を見出すものです。そのために、大学で歴史を勉強したい人には、できるだけたくさん本（必ずしも歴史関連のものに限りません）を読み漁ってほしいと思います。そのうえで、自分の取り組みたいテーマを見つけ出せばいいのだと思います。